

1. 登山記録

1997、ガウリサンカール

山野井 泰 史

私には夢もエネルギーもあるのに登れない。まったく悲しく辛い事だ。マカルー西壁，ガウリサンカール北東面，2年つづけてヒマラヤクライミングに失敗した。成功しなくても何かは残るとよく言うけれど，私は無駄な2年を過ごしてしまったのでは，と思う時がある。私には登りながらの人生で，どうしてもキザミと言うものが必要になっている。ではなぜ失敗したかの，私が行なっているアルパインスタイルは，途中までのルートチェックや荷物のデポもせず，初見一発でルートを登りきる事になっているが，マカールの場合は荷物が重くスピードも上らず精神的にまいってしまった点は大きい。アルパインスタイルの場合，57kgの私の体には20kgの荷物は重すぎた。ヘルメット，アイスバイルなどを含めても15kgにおさえなければだめだろう。しかしマカルー西壁の場合7,800～8,200mにかかる垂直の岩壁があり多くのロッククライミング用ギアが必要だった。こわらのギアがかなり重くしていたのだろう。シュラフも軽いものだったし食糧も一週間分で1.5kgほどだった。では次にもし同じ様なルートに行くとしたらどうしたら良いだろうか，垂直部分をフリーソロできる技術を身に付けるか，あるいは同じ様なクライミングを目指すパートナーを探すだろう。どちらもなかなか難しい。ガウリサンカール失敗はどうだったか，アルパインスタイルで困難なルートを目指すにはなかなか良い山であったはず，どの面も素晴らしいミックス壁になっている。そしてなにより私が挑戦したチベットサイドは誰の手にも触れられていなかったのだ。多くの壁がトレースされている現在のヒマラヤにおいて貴重な壁だった。

しかし，あまりにも情報が少なすぎた。3枚の写真は手に入れたものの少々角度が悪く，私の目標のラインは分からなかった。今，考えてみるともっともっとガウリサンカールについて調べる必要があったと思う。しかしネパールに入国してからの私は気合い十分だった。8月26日の日記はこうだった。「写真より実際はもっと岩が多く出ているかもしれないと気になるが，せっかく壁を目標に来たのだから雪ばかりを期待してはいけないかもしれない。岩を登っても良いではないか，大きな壁には必ず弱点がある」

9月5日BC入りした後，予想していたより山のコンディションが悪く，東壁は多くの赤い壁が出ており，落石が多くて取付けなかった。9月中旬には北壁をチェックするが，セラックの崩壊が多くあまりにも危険すぎた。結局，北東稜を挑戦したが危険な両雪庇のため6,300mを最高点に今回のエクスペディションを終了した。すべてが終わりBCに下山した25日の日記はこうだった。「2年続けてヒマラヤクライミングの敗退，こんな事は初めてだ。今まで少なかった自信がもっと少なくなった。次は何を求めれば良いんだ。無理に求めているのではない。本当にまだ登りたいんだ。強くなければ意

1. 登山記録

味がない。時には、勝たなきゃ意味がない。今の私には、食べ物や水より壁に1本でいいからルートがほしい。しかし、けして安易なルートに行くな。自分を高めるルートに行け、自分を確認出来るルートに行け。」 私は帰国して3カ月、日記を読みながら考える。今、現在も同じ気持ちだな〜と、私の病気はまだ治らない。

(日本登攀クラブ)